

# 「少女小説と私」作文コンクール

## 作品募集



寂聴が少女小説を書いていた29歳の頃（小学館で）

瀬戸内寂聴は作家デビューする以前の1950年代に「少女世界」や「ひまわり」、小学館の学習雑誌などに三谷晴美のペンネームで少女小説を執筆し、人気を博しました。

徳島県立文学書道館では2019年度文学特別展「寂聴の少女小説——三谷晴美と憧れの挿絵画家たち」（4月9日～5月26日）を開催し、関連事業として「少女小説と私」作文コンクールを実施します。

あなたが思春期の頃に読んだ少女小説（海外作品でも可）について書いてください。  
応募要項は裏面をご覧ください。



「ひまわり」1952年11月号



「少女世界」1952年4月号



「小学六年生」1954年10月号

「さくしたたフライパンの油の中に、おかあさまがせんにきさんた玉藻を、ジュット音をさせお入れになつたとんだつた。」「リバーライン」  
お盆の開き音。おあらまはあわてで、長い竹簾を久美子に渡す  
と、「そのお野菜、みんな入れて、ためておいてね」と云ふ。すてられたまゝ、いそぎ足でお玄関に出でゆかれた。  
「おや、まあお食事のおや座中にはござりませぬか?」  
からへと合所までひいてくる大声は、久美子のきらいな表通りの自転車の大村さんのおばさんの声。  
「あら、いゝえ、あのう、たつたいま、すみましたんでよ、さあ、どうぞ!」  
早口で小さなおかさまの返事。

誓いは星座に



三谷晴美「誓いは星座に」（「ひまわり」1952年11月号） 挿絵・蕗谷虹児

すみました【なんて……】

久美子はおなかのすききつたせいかりも、り、

いた上の玉藻の飛りび、キヤベツのせんざい

にフライパン中で控へられた。度、ジ

はじける音があたりつけないとびらつた。

そんな久美子におまかなしに、やがてお

くびんと、三味線調子を含せる音がな

く、今日思ひたつ旅へる、今日思ひたつ旅へ

だめん』

と紹介をねがひする声がひいてゆく。

ぼく、もうはらへんだ、お風呂に行つくな

つておいてね、今落参くらへ算数の宿題

そろひいで、さつまき湯に出かけた弟の虫

こう。久美子は、気がせのとくやしいの、やは

わすたびに、玉藻にしづきされて、じゅうう

# 「少女小説と私」作文コンクール 応募要項

## 応募対象

中学生以上

## 応募規定

◆400字詰め原稿用紙（縦書き）3枚以内。手書き、ワープロどちらでもかまいません。

原稿用紙の枠外に題名・氏名を書き、本文は1行目から書き始めてください。

◆ワープロ原稿の場合は、A4用紙（横）に縦書き20字で印字してください（上下左右に余白をとって、読みやすくしてください）。

◆別紙に下記①～⑧を明記の上、作品とともに右肩をとじてください。

①題名 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤性別 ⑥職業（学生は学校名と学年）⑦電話番号 ⑧行数

◆作品は未発表のものに限ります。なお応募作品の訂正・差し替え・返却はいたしませんので、必要な方はコピーをお取りください。

## 選考

県立文学書道館内の選考委員会（委員長 濑戸内寂聴）により選考します。

## 賞

◆最優秀賞 1人 副賞 寂聴サイン入り少女小説集・寂庵での法話招待券・落谷虹児グッズ

◆優秀賞 若干名 副賞 寂聴サイン入り少女小説集

## 応募締切

2019年2月28日(木)必着

## 発表

審査結果は4月、本人にお知らせし、当館に入賞作品を掲示します。

最優秀賞、優秀賞の受賞者には表彰式を行います（2019年4月予定）。

また、入賞作品を収録した作品集（冊子）を発行します。

## 応募先

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1

県立文学書道館「少女小説と私」作文コンクール係